

重な経験だったと思つております。発表終了後に横浜歴史研究会、常任理事の高尾様に石田三成公の肖像画と辞世の句が手描きされたとても素敵な扇子をプレゼントしていただきました。本人は大変喜んで「これは家宝にしよう」と言っておりました。



石田三成公の肖像画と  
辞世の句を添えた高尾様  
手描きの扇子を持って

れるよう、そして皆さまが繋いできた想いを息子共々守つてゆけるようになりたいと思つた平成最後の夏となりました。お世話になつた皆さま本当にありがとうございました。お世話になつた皆さま本当にありがとうございました。

### 【筆者紹介】

平成29年4月入会。

横浜市西区在住・宮城県気仙沼市出身。好きな言葉は「和顔愛語」

先意承問（わけんあいごせんいじょうもん）。（これは『大無量寿經』というお経の中に出でくる言葉で和やかな笑顔と思いやりのある優しい話し方で人に接し、相手の気持ちを先に察して、相手の為に何ができるか自分自身に問い合わせたすという意味だそうです：

筆者談）

正に穴場の隠し湯＝シャングリラである

2、私は「日本秘湯を守る会」

の会員で現在10宿の秘湯を巡り、今回北海道の秘湯口マンを求め三連泊を計画。因みに女房は「守る会」では私の先輩格で既に20宿以上の秘湯を巡つて

既に20宿以上の秘湯を巡つている古参会員

今回当初計画

第一日目（9月3日）**知内温泉**

800年前に開湯した北海道最

古の湯

戸塚→東京→（東北・北海道新幹線）→木古内→路線バス・旅館送迎バス→**知内温泉**

第二日目（9月4日）**丸駒温泉**

昔は支笏湖温泉から小舟でしか往き来出来なかつた温泉場で、湖と同水面にある湖岸波打ち際の天然露天風呂が売り物

シャル26000円の掲載を見、

9月2日の横浜歴史研究会発表の骨休み、そして女房に日頃の感謝の意を込めて「北海道道南・秘湯巡り」を計画

（余談）1、秘湯とは○○温泉と謳つてはいるもののその多くは温泉街の喧騒から懸け離れた静寂な山間の一軒宿の温泉場で、

北海道旅行

**ダブル＝台風・地震遭遇記**

古谷 多聞

インターネット「JR東日本／大人の休日俱楽部」欄に「大人の休日バス秋の東日本・北海道スペ

ルである

2、私は「日本秘湯を守る会」の会員で現在10宿の秘湯を巡り、今回北海道の秘湯口マンを求め三連泊を計画。因みに女房は「守る会」では私の先輩格で既に20宿以上の秘湯を巡つて

いる古参会員

正天皇銀婚式当日に温泉が湧き出た事から命名

丸駒温泉→送迎バス→支笏湖温泉→路線バス→南千歳→（函館本線）→落部→旅館送迎バス→銀婚湯

第四日目（9月6日）大沼公園散策

銀婚湯→旅館送迎バス→落部→（函館本線）→大沼公園駅：大沼公園周辺散策→（函館本線）→新函館北斗→（東北・北海道新幹線）東京→戸塚

9月3日・曇

・今回旅行苦難の初っ端＝ケチの付け初め 前夜例会発表の安堵感もあり例会後の懇親会ではついいつい仲間と深酒し当朝は二日酔い状態で戸塚駅を出発 案の定横浜駅を過ぎた辺りから吐気を催し遂に

西大井駅で途中下車しトイレに駆け込みホームベンチで休息する体たらく 今回旅行の前途多難の前触れか？

・木古内駅から松前行の路線バスに揺られ左手車窓に津軽海峡を眺めながら走ること約40分、更に旅館送迎バスに乗換し約10分で知内温泉に到着 正に山の中の一軒宿

・温泉温度は43度は熱湯好きの私でも流石に入る事は出来ず風呂に入るのを躊躇つていると、温泉を自宅の風呂代わりに利用している地元の人は「今日は温い方だ」と平気な顔で長風呂。私は43度の内風呂を敬遠し一人露天風呂に浸る。

〈余談〉 1、木古内駅は津軽海峡

青函トンネル北海道側出口に在り北海道の玄関口。駅前には瀧洒な「道の駅」はあるが町往く人は疎らぶらり津軽海峡の海岸まで足を向けるが曇天で対岸の津軽半島を臨む事は出来ず

2、北海道知内町が北島三郎の出身地である事を今回の旅行で初めて知る

9月4日・晴

・新函館北斗を過ぎると左手に大沼公園の湖沼、特徴な姿をした駒ヶ岳（別名渡島富士）を左・右に見ながら迂回し暫らくすると右手車窓には内浦湾（別名噴火湾）の浜が続く

・長万部駅停車時間30秒で、プラットホームで待機していた駅弁店員から予約済みの「カニ飯」を受取り

・南千歳で支笏湖温泉行の路線バ

9月5日・晴

・早速宿自慢の支笏湖岸波打ち際の天然露天風呂に入るが、台風2号の強風の影響で波は容赦なく風呂まで入り込みゆっくり浸る事は出来ず早々と内風呂に退散

・気になるのが台風21号の進路状況。室内のTVで台風上陸後の各地の被災状況、特に関西国際空港ターミナルの災害状況を明日は我が身とも知らず他人事として視聴。外は暴風雨であるが、台風は未明には北海道を通過し温帯低気圧になるとの天気予報を信じ明日の好天を期待するが、翌朝その期待は暗転

〈余談〉 支笏湖

1、面積は約78km<sup>2</sup>で国内八番目（琵琶湖の約1/9）。最大深度は360mで田沢湖に次ぐ国内2番目。透明度は約18mで摩周湖、バイカル湖に匹敵

2、洞爺湖、摩周湖、阿寒湖、屈斜路湖等ほど観光化されており一度訪れては如何？

・早朝から館内放送は昨晩の台風で架線切れ、倒木、土砂崩れが発生し、道内JR全線は運休、国道も各地で寸断、通行止め。支笏湖、千歳間の北海道道16号線も通行止めとなり路線バスはストップとのアナウンス。支笏湖から千歳市までの唯一の陸路は遮断され、丸駒温泉は完全に陸の孤島と化す。旅館は特別な計で札幌までの送迎バスを仕立てるが、札幌まで国道453号の道路状況が不明で道路管理事務所の先導車無しでの通行は不可との由。午前11時過ぎ先導車の手配が出来漸く札幌に向けて旅館を出立。この時点で「今日の宿銀婚湯まで辿り着けるか？」と不安が過るが、今は丸駒温泉脱出が先決で之から先の事は札幌に着いてから考える事とする。

・札幌まで行く途中の道路表面は落ち葉、枯葉で蔽いつくされた箇所もあり、又所々倒木除去作業の形跡も見受けられる。通常札幌まで約40分で行ける距離を今回は約1時間半も掛けての徐行安全運転で午後1時過ぎ札幌駅に到着。

・札幌駅到着後何はさて置き今日の目的地銀婚湯までの最寄駅JR八雲までの特急指定券をゲットする。為みどりの窓口に駆け込む窓口担当者によると昨日来からの台風による架線切れ、倒木、土砂崩れ等で道内JR全線は運行見合せ。而も運行再開も目処も立たずとの由。しかし札幌18:08発特急「スーパー北斗22号」函館行が今日最初の特急として運行予定の見込との案内で取り敢えず八雲までの指定券を確保。銀婚湯旅館には「夜9時過ぎの到着見込の為夕食は不要で朝食のみの宿泊」と連絡、旅館側から「歓迎」の快諾を得る。

・今日今後の行動計画も決まりやつと昼食に在り付く。レストラン街店舗一覧パネルを見て食事処を物色中通りすがりの中年男性から「寿司ならここが一番。私は週2~3回は行く」と寿司店を紹介される。早速店に行くと長蛇の

温泉から札幌駅に向かう国道53号沿道近隣地で、地震前日にバスで通過中にはそんな惨状になると想だにせず。一日遅れての乗車では果して無事通過出来たであろうか？

列、待つこと約40分、やつと席に着く事が出来る。この店は普通の回転寿司店と同じカウンター椅子席であるが注文は全て伝票に書き込みカウンター内の板さんに手渡し、流石北海道本場のネタは最高、しゃりも美味、腹一杯食べても勘定は東京の半分か！

〔余談〕寿司店「根室花まる」東京にも丸の内KITTTE・銀座東急プラザに出店

・食事満腹感、列車発車までにはまだ時間があるので札幌駅周辺をぶらり先ずは高校時代の憧れの大学でノスタルジアの地＝北大（北海道大学）を目指す。北大は高校修学旅行で一度訪れた地で五六年前を思い出しながら「クラーク博士像」「ボプラ並木」の構内を散策。しかし「ボプラ並木」は老木により倒木の危険性がありと現在は立ち入り禁止で遠方から覗きに込むだけ。札幌市のランドマークである「時計台」にも足を延ばすが修理中でブルーシートが覆われておりその姿を見る事が出来ず・今回旅行のツキの無さの象徴しかし駅への帰り道に本場北海道のアイスクリームを堪能

・札幌駅に発車30分前の午後5

時半頃に戻り乗車予定の運行見込みを聞くが駅員からは「特急を含む全列車運行の目処は立たず」の返事。しかし一方からは「一時間半遅れでも特急運行の情報」噂も流れ、何れが真実の情報か皆自判断付かずそんな訳で今夜の宿銀婚湯旅館に我々の現状を再度説明し「宿に着くのは午後11時頃になる見込み」と連絡すると今度は色好い返事は得られず暗に今日の宿泊はお断りのニュアンス！特急運転が何時になるのかは全く不明、又運転再開したとしても深夜の宿到着は宿側に迷惑を掛ける事を熟慮し苦渋の選択で銀婚湯行きを断念し今晚は札幌に臨時泊を行し当初計画通り新函館北斗16:17発東北・北海道新幹線で横浜帰宅を目指す改めて市内宿泊場所探しに取り掛かる

・最初の宿泊案内所で「手頃な料金のビジネスホテルはないか？」と聞けば案内人曰く「今日のこんな状況では何処のホテルも満杯、2万円以上のホテルなら有るかも！」宿泊料金だけを考えれば

SPA(総合銭湯)しかない」と飛び込み受付嬢に我々の現状を明し宿泊ホテルの手配を依頼。受付嬢は即パソコンで検索「10500円なら有り」との返事。「今夜の時があれば何処でも良し」と即刻予約依頼。銀婚湯旅館には正式に「今夜の宿泊キャンセル」を申出。

・紹介されたホテルは何と東京大手私鉄系列シティホテル「札幌Pホテル」。部屋は24階で室内に入るとこれ又10500円部屋かと眼を疑うような豪華な部屋、帰宅後パソコンで札幌Pホテルを検索すると今回宿泊した部屋はデラックススイートルームで通常の宿泊料金は今晚宿泊の7倍以上と知りこれには只吃驚するばかり

・最後の宿泊案内所で「手頃な料金のビジネスホテルはないか？」と聞けば案内人曰く「今日のこんな状況では何処のホテルも満杯、2万円以上のホテルなら有るかも！」宿泊料金だけを考えれば

SPA(総合銭湯)しかない」と鼻であらうように突つ懃貧な対応。些かムカツトし「もうお前には頼まん」と席を蹴り別の宿案内所を探す

・偶々対面にJTBが在り直ぐ様飛び込み受付嬢に我々の現状を明し宿泊ホテルの手配を依頼。受付嬢は即パソコンで検索「10500円なら有り」との返事。「今夜の時があれば何処でも良し」と即刻予約依頼。銀婚湯旅館には正式に「今夜の宿泊キャンセル」を申出。

・紹介されたホテルは何と東京大手私鉄系列シティホテル「札幌Pホテル」。部屋は24階で室内に入るとこれ又10500円部屋かと眼を疑うような豪華な部屋、帰宅後パソコンで札幌Pホテルを検索すると今回宿泊した部屋はデラックススイートルームで通常の宿泊料金は今晚宿泊の7倍以上と知りこれには只吃驚するばかり

・最初の宿泊案内所で「手頃な料金のビジネスホテルはないか？」と聞けば案内人曰く「今日のこんな状況では何処のホテルも満杯、2万円以上のホテルなら有るかも！」宿泊料金だけを考えれば

ス姿を見てその世界の人かと判断して特別室を案内したのであろうか？それはともかく部屋の豪華さと充実したアメニティグッズに満足し明日のJR運行再開を願つてベッドに入る

9月6日・晴

・「明日の今頃は自宅の布団」と夢現眠りこけていた午前3時8分突然「ドスン」という音と共に縦揺れ・横揺れの連續時間的にして1~2分余の揺れであつたと思うが今まで体験した事の無い地震に叩き起こされる。札幌市内の震度は4との新聞報道であったが、体感ではそれ以上の揺れと感じた。・館内緊急放送で「地震発生したが当ホテルは異常なし」停電するが自家発電で対応中のアナウンスに安心し再び眠りに就くが、朝方女房からの嫌味「あんな大きな地震の後でもよく眠れますね！」と、私の地震の対応法は自宅ではいざ知らず高層階に居ての地震遭遇時は一瞬にしてのビルの崩壊には逃げる暇は無いとその場に居座る。と諦観・現役時代の独身寮10階の部屋に居住した時の経験からか？それともフロント係員が私の人相風体＝髭面・サングラ

・館内停電の影響は早速24階か

ら1階口ビーに降りる時に思い知らされる。エレベーターの停止により24階から1階までキャリー・パックを持つて一段一段非常階段を只管降りる羽目となり日頃の運動不足を痛感。昨晩の部屋の豪華さの満足感は何であつたのか？これが今日一日の苦難のプレリュード！

1階までやっと辿り着くとロビーはツアーカー（殆どが大陸系の中国人？）の交通難民で大混乱。全市内停電によりTV・ラジオ等からの現況把握が出来ず。ホテル係員に聞いても彼らも情報収集に手一杯で右往左往。その間、ロビー内の彼方此方で情報＝ガセネタ・デマが飛び交い、果してどれが真実の情報かの判断に迷う。「焦つても仕様がなし」と朝食を取りながら次善策を練る。

〈余談〉今思うと現地の情報より東京の家族、友人からのメール情報が正確で、その情報送信に多謝。

手取り早く正確な情報を得る発予定地JR札幌駅に直行。市内全域停電で途中の道路の信号機は作動せず、バスは誘導員同乗のナ

ビゲートで何とか札幌駅に到着

（余談）信号機無しでの市中幹線道路の運転は今の私の運転技術ではとても無理！

・札幌駅は案の定シャツターが降り真っ暗闇。

駅員曰く「停電で今日の道内JR全線の運行はストップし復旧の見込みは立たず」との

由、当然の如くJRが駄目なら新千歳から飛行機をと検討したが空港機能の麻痺でこれ又シャツターウト、それよりも新千歳に行く事

ことすら不能。最悪の場合はJR復旧までホテルの連泊も検討…。

北海道全域は陸空とも本州との交通手段は遮断され完全に陸の孤島と化す。

・そんな折、横浜の娘から「苫小牧、函館、小樽等からのカーフエリーの方法もあり」とのメール連絡即カーフエリー乗船を検討するが、「待てよ！出港地苫小牧、函館まで行く術は無し」。それならば札幌から一番近場の小樽まで唯一の交通手段であるタクシーを飛ばし小樽から新潟経由の帰宅を決断、小樽発17：00出港新潟行きカーフエリーのキャンセル待ちに望みを掛けイチかバチかでタクシーで小樽フエリーターミナルま

で直行

（余談）小樽に向かうタクシーの車窓から沿道の各スーパー、マート

ケットで長蛇の列を散見。運転手に聞くと「断水で飲料水の確

保、食料品の調達に並んでいる」との事。

・小樽フエリーターミナルに着いたのは午前11時頃、即新潟行きのキャンセル待ちの受付場所に直

行するが既に十数人の列。キャンセル待ち受付開始は午後1時で、受付開始まで2時間何もする事なく立っているだけで時間の経過を待つのみ。会社係員に「緊急事態だから乗れるか乗れないかは別として早めに受付開始は出来ないか」と要請するが、受付は規定通り午

後1時と一点張り。

・午後1時漸くキャンセル待ちの受付開始。我々の受付番号はNo.1

1であつたが係員曰く「受付したとしても必ず乗船出来るとは限らない」。午後四時乗船可否を発表

と素氣無い言種。その間の3時間は正に「俎板の鯉」。

場合の事後策は殆ど頭の中に非ず。

その時はその時」と腹を括り只

午後4時待望のキャンセル待ち

乗船可の受付番号の発表。「受付番号No.18まで乗船可」のアナウンスにほつと一安心。後は明朝午前9時15分の新潟までの安寧なボン・ボワイヤージュ（安全航海）を祈るばかり。

・乗船して最初にしたのが携帯電話の充電。旅行前自宅で充電したが3日目に札幌駅で銀婚湯旅館との遭取、4日目地震後にカーフエリー各社との遭取、家族、友人と連絡等で電池量が枯渇。充電完了後直ちに家族と友人に我々の身の安全とカーフエリーで小樽→新潟経由での帰宅を連絡。

（余談）同窓同期で独身寮、社宅が一緒であつた親友との最後の対話。

私の北海道での安否を心配してくれた親友で「今小樽からカーフエリー新潟経由で帰宅中、心配ご無用と仲間に連絡頼む」の携帯電話通話が彼との最後の遺言。

取扱いの報に接し愕然。我々仲間で死の報に接し愕然。我々仲間で一番若くて健康オタクであつた

死の報に接し愕然。我々仲間で一番若くて健康オタクであつた彼が！合掌。

乗船したカーフエリーはサウナ露天風呂付の大浴場、洒落たレス

トラン、カーフエリ等の設備も充実し

た1万4千トンの大型船で宛ら外国航路の豪華客船の如し 昔のカーフエリーで雑魚寝の豊張りの部屋は無し 只我々の船室はエコノミークラスで都会のカプセルホテルの体「贅沢は言うまい 乗れただけでも御の字」と個室のカーテンを閉じ横になると今までの疲れがどつと出たのか即寝入る 翌朝又ゝ女房からの嫌味「周りにまで聞こえる高鼾！」と

9月7日・曇

・予定より1時間半遅れて無事新潟港に接岸 フェリーターミナルでは地元TVレポーターから「地震に遭われたのですか？」このカーフエリー乗船は前々から予定していたのですか？」等の質問攻め 地震の体験、カーフエリー乗船の経緯等を答えたがTVに放映されたかは不明  
・JR新潟駅までは小樽フェリーターミナルでキャンセル待ちで知り合った旅人とタクシーの相乗り 新潟から上越新幹線東京経由戸塚着で帰宅 斯くて4泊5日のドタバタ旅行はThe End o!

（余談1）

北海道旅行は今回で5回目であるが、「歴史は繰り返す」「二度

ある事は三度ある」の例えの如く今回を含めうち3回は台風等で想定外・予定外の旅行を強いられる。

その1：昭和37年夏高校2年時の北海道（道東、道央、道南）

修学旅行で、室蘭から函館へ行く途中台風が長万部付近に上陸し交通機関が寸断され伊達紋別付近で立ち往生 国鉄運行再開まで急遽洞爺湖温泉に緊急避難し2泊の分散宿泊を余儀なくされる その後洞爺湖温泉宿泊代を追加徴収された記憶あり

その2：平成10年甥の結婚式参列で札幌から帰途、父の墓参に故郷仙台に立寄る為當時人気のブルトレ豪華寝台特急「北斗星」の乗車予定（札幌発18：10）が、東海地方に台風上陸の余波で発車直前運行取止めの放送 市内にホテルを取り翌朝飛行機で仙台に向かうか？と思案中に新千歳から羽田最終便がフライトするとのアナウンスで即搭乗

（余談2）

1、旅行の必需品・・今回旅行で痛感

携帯電話の携帯用充電器・携帶ラジオ・携帯用懐中電灯（ヘッドライトがあれば更に可） 飴、ペットボトル（非常食として）

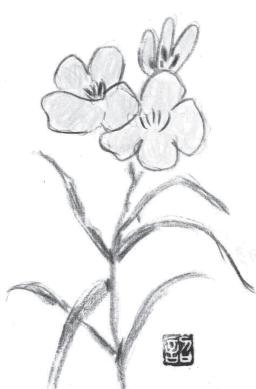
2、ホテル、旅館に着いたら即非常口の確認励行を！

特に温泉街の古い旅館は増改築の連続で廊下が複雑に入り組み玄関まで辿り着くのに難儀

のチャーターバスで蒲田まで乗車し都内の女房の実家に宿泊翌朝仙台の実家には立寄せなかつた事情を説明し陳謝 その3：今回平成30年秋の旅行

5回の北海道旅行で内3回までもがトラブルに遭遇、何でそんなにしても北海道に行くのか？の問いには一言では言えないが「北海道には本州、九州、四国には無いロマンがあるから」としか答えようがない

それでは今後の皆様の旅行が私の方々に遭遇したことなく楽しい思い出になる事を祈念しております



3、私の様に想定外の旅行に出でて着陸するが羽田からのアクセスは無し、航空会社用意

（余談1）